

■トラック3

あっ…いたいた…♪

あけましておめでとう。

今年も、よろしくお願いします♪

……ふふっ、びっくりした？

ほら、言ったでしょ？ また、すぐに会える気がするって…。

……なんてね。

ここに来れば、きっと会える気がしてたんだ。

君って、昔からずっとお正月はこの神社にお参りしてたもんね。

ほら、小さい頃、一緒に初詣に来たこともあったでしょ？

君は、すっかり忘れちゃってたみたいだけど

ふふ、ごめんね。ちょっと意地悪言っちゃった。

でもね……あの時のこと、私にとっては

キラキラしてて、すごく思い出深い記憶なんだ。

……最近ね、あの時のことを思い出しちゃって…。

今日は久々にお仕事もお休みだったし、久々に君とお参り…

したくなっちゃったんだ。

っていうのは、理由の一つで…

もう一つは、ちょっと、心配だったんだ。

ほら…もし、天音さんとか、澄華ちゃんと『偶然』会ったりしたら…

絶対に取り合いになって、初詣どころじゃなくなっちゃうでしょ？

……だから、そうなる前に私がとっちゃおうかなあって。

……ふふっ、冗談だよ。

私はただ、君に落ち着いたお正月を過ごして欲しいだけ。

だから…ね？

こんなところに居たら、二人に見つかっちゃうかもしれないし…

ちょっと、移動しない？

……さあ？

よくわからないけど、もしかしたら偶然来てるかもしれないでしょ？

澄華ちゃんは君の幼馴染みだし…

天音ちゃんだって、可能性はゼロじゃないよね…？

……と、いうわけでえ…

ほら、いこいこ？

私、ひとけがなくて、景色がいいスポット知ってるんだ。

……ふう、とうちゃーく。

……ね。なかなかいいでしょ？

ここ、お気に入りのスポットなんだ。

こんなに見晴らしが良いのに、神社の裏から上がってこないといけないから、人も全然いないんだよね。

ってことはつまり…

エッチなことしても、バレにくってこと…♪

……んー？ さあ、どうでしょう？

私はただ、仮定の話をしてるだけだから…♪

だけど…もし君がその気なんだったら…

…私は、別にいいよ？

ん、ああむ…。

……ほら、好きでしょ？ 耳舐め。

こうしてあげたら…興奮、するんじゃないかなあって。

その証拠に…もう、耳赤くなってきてる…。
ん、んれるう…。

鼻息も荒くなって…外でもこんなすぐに反応しちゃうなんて…
ほんと、エッチだよね…？

……んー？
理由なんて、細かいことはどうでもいいでしょ…？
問題は、君が気持ちよくなりたいかどうか…それだけだよ？

ね…しちゃわない？ 私と姫始め…♪
あれから、エッチはまだしてないんでしょ…？
たっくさん溜まった性欲…ここで発散させちゃお…？

……あ、外だからって気にしてる…？
まあ確かに、ちょっと人は居るけど…でも皆、風景に夢中で、
私達のことなんて気にしてないよ？

それに…ここなら周りからも隠れてるし…
めったに見つかることはないから…安心して…？

……んー。もう、強情だなあ。
早く、素直にエッチしたいって言っちゃえばいいのに。

……だって、ほら…もう、おちんちんこんなに勃起させてるくせに…
ずっと強がってるんだもん。こんなの、苦しいだけでしょ…？
……だから…今、楽にしてあげる。

ん、ああ…んふっ。相変わらず、すごいね？
さっきはあんなに恥ずかしがってたくせに、おちんちんはガッチガチ…♪
本当はエッチなこと…したくて溜まらないんじゃない…？

……ふうん？ まだ意地張るんだ…？

それじゃあ…これなら、どう…？ ん、ああ…。

ん…ふふっ…。

また、耳舐めすると思った…？ 残念…。

ずっと一緒だと、つまないでしょ…？

だから…おちんちんしこしこおってしながら、キスしてみるのもいいかなあって…

……ん、だ一め。絶対に逃がさないから。

というか…勃起おちんちん丸出しの状態で逃げられるなら、

離してあげてもいいけどね…んふふっ♪

……ね、どう？ ディープキスと手コキ、気持ちいいでしょ…？

……んふ、そうだよな？

君って、キスも手コキも大好きだもんね…？

でも本当はここ…おまんこにぬぶううって入れちゃうのが一番好き…そうでしょ？

だったらもう迷わないで、早くエッチしちゃお…？

……んん、まだそんなこと気にしてるんだ？

私、知ってるんだけどなあ…。

君はこういう、誰かに見つかったやいそうなシチュエーションの方が

興奮するって…澄華ちゃんから聞いたよ…？

んっ、んんっ…んふっ。

やっと、その気になってきたみたいだね…？

あ、んん…いいよ？ そのまま、おっぱい触ってて…

……んっ、はあ、あはあ…あ、気付いた？

……うん。私…振り袖の下…何にも着てないんだ。

だから…これ脱いじゃったら私、裸なんだよね…。

……もちろん、パンツもはいてないよ？

なんなら…自分の手で、確かめてみる？

……もう、遠慮しなくてもいいから。

……ほら、手、貸して？

……あっ…ん、んんっ…。

ん、ああ…ね？ 本当に、下着…はいてないでしょ？
ちょっとすーすーするけど、君に喜んでもらいたくて…

……んっ、ああ、それは…

この前のエッチのこと……まだ、忘れられないの。
君のおちんちん、すごく気持ちよくて…ああ、んっ。
思い出ただけで……ここ、キュンキュンして……。
ここに来る前から、おまんこ…ヌルヌルになっちゃってたんだ…
んっ……あ、ああ……。

……ね、もうわかるでしょ？
また、エッチ…してくれない…？ だめ、かな…？
君のおちんちんで、マーキングされちゃった私のおまんこ…
もう一回、気持ちよくして欲しいの…
硬いの、ぬぷうって奥まで挿入して、また、子宮の入り口の所まで…
とんっとなってしてよ…

……ねえ…何をそんなに迷ってるの？
この前は、あんなに激しくしてくれたのに…
ん、ああ…私は、いいんだよ…？
あの時みたいに、滅茶苦茶に犯してくれたって…

ん、ああ…

……ん？ 理由…聞きたいんだ？
えーと、それはね…

君のことが……好き、だから。
ずっと、ずっと前から……ね。
君は覚えてないかもしれないけど、
幼かった頃、私……君に救われたの。
懂れて、追いかけてようとして諦めた…。私の大事な初恋。

……わかった？　それが、君を誘惑した理由…。
一度は、諦めたけど……
こうしてまた、アイドルを目指す先で君に出会えたとき、
ああ、運命って本当にあるんだって思ったの。
……ねえ、気づいてた？
今まで“偶然”会ったこと、何度もあったよね。
でもさ…そんな都合のいいこと、あるわけないでしょ…？
君に、もう一度会いたくて……………
全部、私の計画だったんだよ…？

……んふ。今の聞いて、興奮しちゃった？
ほら、ここ…おちんちん、ぴくぴくうってしてるよ？
急に私から好きって言われて、したくなっちゃったんじゃない…？

……さあ、それはどうだろ？
本当かどうかは…エッチしてくれたら、教えてあげる♪

……ね、知りたいんでしょ？　私の本音…
だったら…ほら、もうおちんちん入れちゃお…？
私は、準備できてるから…

……んっ、ひゃっ！？　な、なにしてるの…？

……いや、そのっ…も、もう濡れてるからっ…
別に、舐めたりしなくてもっ…あ、んんっ。

……んくっ、んん…ふえ？
き…気持ちいいけど…でも、汗かいてるし…汚いから…
あんまり舐めない方が…んあっ、あ、ああっ…。

……ね、ねえ…
なんだか舌の動き、激しくなってきたような気がするんだけど…

も、もしかして…おまんこの匂いに、興奮しちゃったの…？
んくっ、んっ、ああっ…。

……も、もう…匂いに反応してくれるのは、嬉しいけど…
クンニじゃなくて、そろそろエッチしない…？
んっ、はあ、はあ、はあ…

……んっ、だ、だって私、もう、限界でっ…あっ、ああっ…

……だ、だから、い、イキそうなのっ…
君の舌、す、すごく気持ちいいからっ…あっ、あっ、んっ…！

ほんと…だ、だめっ…い、イクッ…んくっ、んっ、んうううっ…！

はあ、はあ…あっ、ああっ…んっ…。
い、イツちゃった…はあ、はあ…。

……ん、んん…うん、たぶん、バレてはないと思う。
声は、ちゃんと我慢したし…。

……そ、それより、潮…顔にかかっちゃったよね…？
私、結構濡れやすいみたいで…何か、拭くものとか…

……あ、あれ？ い、いらないの…？

と、というか、その顔……ふふっ、やっと、本気になってくれたんだ…？

……んっ、ああ…うん、いいよ。

君の欲望、そのまま後ろから…全部、私にぶつけて…？

んくっ…あっ、ああっ…あ、んっ…。

ああ…すごく、熱い…。
こんなになるまで、ずっと我慢してたんだよね…？

だから…いいよ？
私のマン汁の匂い嗅いで、ガチガチになった勃起おちんちんで…
おまんこの中、思いっきりかき回して…？

んっ、あ、あぁっ…やっぱりこれ、気持ちいいっ…。

感じるそこ、ごりごりって当たって…んっ、あぁっ…。
おまんこの中、すっごくゾクゾクするっ…。

んっ、お、おぉっ…だ、大丈夫っ…。
バレないように、ちゃんと声抑えるからっ…

心配しないで…君はこのまま、勃起おちんちんでおまんこ…
ぱんぱんって好きなだけ犯してっ…♪

んおっ…い、ん、おおっ…！

……ご、ごめんなさい。
君のおちんちん、気持ちよすぎてっ…声、我慢出来なくっ…
んおっ、お、おおっ…。

こ、このままじゃ、バレちゃうからっ…
体勢、変えてもいい…？

……んっ、あっ、あぁ……あ、うん…。

これなら、もし人が来ても顔を隠せそうだし…いいと思う。

……あ…ふふっ、凄い顔。

その…我慢させちゃって、ごめんね？

ここからはもう、思いっきり動かしていいから…
君のおちんちん…感じさせて…？

んっ、はあ、はぁっ…あ、あぁっ、すご…。
ほんとにさっきは、手加減してたんだね…？

……ううん、気を遣ってくれて…ありがと。
優しい君のことだから、身バレのこと…
気にしてくれてたんだよね…？ んっ、お、おお…。

でも、もう大丈夫…
満足するまで、全力で腰…動かしていいんだよ…？

んっ、んおっ、おおっ…。

……う、うん、気持ちいいっ…気持ちいいよ……
勃起おちんちん、凄く深いところまで突き上げてきてっ…
おかしくなっちゃいそうなくらい、感じちゃってる…！
ひうっ、んおっ、おおっ…

……でも、それは君も一緒でしょ？
ほら、さっきから勃起おちんちんびくびくうってして…
出ちゃいそうになってるでしょ…？

……わかるよ、そのくらい。
表情もすごく必死そうになってるし…
出したって顔に書いてるみたい、お、んんっ…

限界なら、出しちゃっていいんだよ…？

私も、もうイッちゃいそうだし…おお、んっ…
出すためのお手伝い、してあげるから…
アイドルおまんこにびゅっ、びゅーって出しちゃお…？

んっ、はぁ、はぁ…あは。
また、おちんちんびくうって反応しちゃったね…？
ん、おおっ…もう、先っぽまで精子上がってきてるんでしょ…？
遠慮なんてしないでいいから…射精、しちゃお…ね？

んくっ、お、おおっ…！

すき……すき……だいすき……っ…んっ、

昔から……キミのこと、ずっと……好きだったの……っ。
まさか、こんな形で……初恋が実るなんて……思ってたかった……あ……んくっっ…♥

……う、うんっ…さっきから、何回も軽くイッちゃってるから…
エッチな声、止められなくてっ…んっ…おっ、おおっ…！

このままじゃ、本当に声我慢出来なくなっちゃいそうだからっ…
私の声でバレちゃう前に、精子、出してっ…！
“すきすき”の、せーし……ぜんぶ、私にちょうだいっ……！
私のこと、好きって言いながら……イってえっ……♥

あ、あぁっ…も、もう、だめっ…！
い…イグッ、イグイグうッ…！

あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ 、イッ……………クウウウっ!!!

んおっ、おっ…んおおおおおおおっ…！
はあ、はあ…んっ、お、おお…んっ、あぁ…。

あぁ…し、射精、すごっ…んっ、おおっ…
いっぱい出てるの、伝わってきて…んっ、あぁっ…
き、気持ちいいっ…んおっ、おおっ…！

んっ…あ、あぁ…はあ、はあ…

……す、すごく、射精長かったね…。
おまんこの中、君の精子でいっぱいにされちゃった…♪

……あ、心配してくれるんだ？ ふふっ、優しいよね…。
でも、大丈夫だよ…すごく気持ちよかったから…。

それに、誰にも見つからなかったみたいだし…
結果オーライってとこかな…ふふっ。

……あ、うん、そろそろ戻った方がいいかもね。

…あ、でも、ちょっと待って。
その……さ、さっき言った“キミのことが好き”って気持ち、あれ……嘘じゃないから。
ふふ……ねえ、ずっと前から思ってたの。
今日みたいに、また隣で笑い合えたらいいなって……。
……あ、それとね、一つだけ、相談があるんだけど。

今度、君のお家、行ってもいい…？

……だって、天音さんや澄華ちゃんもお邪魔したことあるでしょ？
だから、私も行ってみたいなあ、って………だめ、かな？

……ふふっ、やった♪
じゃあ今度は、君のお家でね。
楽しみにしてる。んふふっ…♪